

オサバグサを訪ねて＝縞枯山(しまがれやま)(2018/7/2-3)

帽子

梅雨が明けたというニュースを聞いて、八ヶ岳山麓にあるホテルから優待券が送られてきていることを思い出した。7月2日(月)の早朝 6:00 狭山を発ち、中部横断自動車道が八千穂高原まで延長され、アクセスが便利になった麦草峠に向かう。ドア to ドアで2時間半、8:30には到着した。なお、佐久から八千穂高原までは無料、ありがたい。麦草峠の駐車場は30台分しかない、少し心配したが、月曜日のことから、まだ15台ぐらいしか止まっていない。この駐車場は2-3年前、高見岩-白駒の池のハイキングの際に利用したことがある。ちなみにここに設置されている無料トイレは手入れされキレイに使える。この日は麦草峠(標高 2,120m)-茶臼岳(標高 2,384m)-縞枯山(標高 2,403m)ピストンを目指す。縞枯山(北八ヶ岳)*¹は田中澄江の「花の百名山」ではオサバグサ*²が紹介されている。オサバグサはケシ科の植物で、シダのような櫛の歯状の 10-20cm ぐらいの葉が特徴で、直立した 15-20cm ぐらいの花茎の上部に4弁の可憐な白い花をつける。画像を参照されたい。

ところで田中澄江はオサバグサを訪ねて 11 月初めに縞枯山に行っている。図鑑を見ても花の時期は 6-7 月とある。まさに今である。田中澄江はなぜ花の枯れた 11 月に行ったのだろう。縞枯山の名前から連想し訪ねたのだろうか。それとも、花よりもこの草のシダのような特徴的な葉っぱにひかれて訪ねたのだろうか。手掛かりは書かれていないが、想像することも楽しい。ちなみに花の記載は早池峰山での観察に基づいている。

麦草峠から入ってすぐにオサバグサに出会う。もう少し大きな花をイメージしていたが可憐な白い花、それに、シダのような不思議な葉っぱ。今までこんな“草”は見たこともない。あるいは、葉っぱだけをみてシダと思い、気に留めなかっただけなのだろうか。

ほぼ、コースレコード通りの時間で茶臼岳-縞枯山を縦走し、北八ヶ岳ロープウェイの山頂駅から、巻き道を経由して麦草峠に戻る。その途中、木道の上に小さな生き物がちよろちよろする。リスかと思ったが、しっぽが大きい、首から腹にかけて白い、イタチに似ている。帰ってきて確認したら絶滅危惧種のオコジョだった。感激。

この日は、八ヶ岳山麓のホテルに泊まる。次の日は、たまたま前日(7月1日)のNHK 日曜美術館で紹介されたハーモ美術館*³に行く。これは下諏訪にあり、アンリ・ルソーやグランマ・モーゼスなど素朴派を中心に所蔵する小さな美術館である。

今回は、急に金曜日に思いつき、土曜日にホテルの予約を取り、日曜日に TV で美術館の紹介があり、月曜日に出かけるという、リタイア後の、スケジュールは自分の意思でどうにでもできるという特権を生かした旅行となった。付き合ってくれた連れ合いにも感謝する。

＊1：＜縞枯山＞

<https://www.yamareco.com/modules/yamainfo/ptinfo.php?ptid=449>

縞枯山(しまがれやま)は、ハケ岳連峰の北ハケ岳にある標高 2,403m の山。名前のとおり縞枯れ現象(写真)が見られることで古くから有名である。縞枯れは、亜高山帯針葉樹林のシラビソ・オオシラビソが帯状に枯れ、その縞枯れの帯が、山頂に向かって長い年月をかけ移動していく現象である。遠方からは山の斜面に何列もの白い縞に見える。この原因は正確には解明されていないらしい。

＊2＜オサバグサ＞

<https://ja.wikipedia.org/wiki/オサバグサ>

葉は多数根生し、長さ 10-20cm、幅 2.5-3cm になり、基部は短い柄をもつ。葉は櫛の歯状に深く裂け、表面にあらい毛をもち、裂けた羽片の幅は 3mm になる。花期は 6-8 月。花茎は直立し、高さは 15-25cm になり、花茎の上部に、白色の 4 弁の花を下向きに多数つける。小花柄の長さは 10-15mm、花弁は長楕円形で長さは 5mm になる。葉の形がシダ類に似、機織の筥(おさ)に似ていることからこの名がついた。

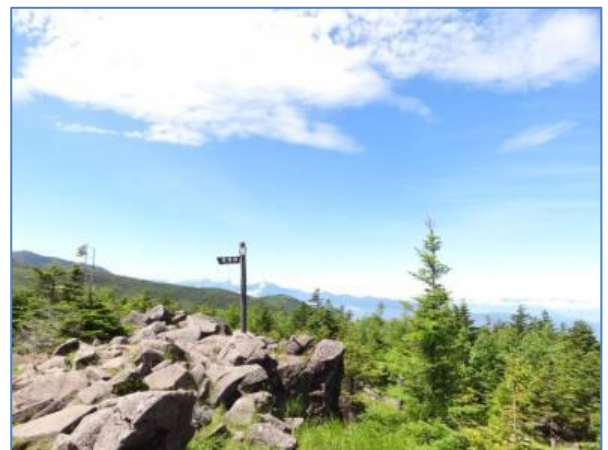
＊3：＜ハーモ美術館＞

<http://www.harmo-museum.jp/>

以上



麦草峠 駐車場



茶臼岳途中展望台



オサバグサ



ミヤマキンバイ



ツマトリソウ



ゴゼンタチバナ



茶臼岳(標高 2,384m)と縞枯山(標高 2,403m)



縞枯部分



オコジョ(縞枯山にて)